

2010年8月 第三回オープンセミナー「作家：椎名誠 講演会」

CSNが年1回主催するオープンセミナーが、8月28日にオリンピック記念青少年総合センターにて開催されました。この日は35度近い猛暑にもめげず、定員の80名いっぱいの参加者を見ました。会場入口には、椎名氏と若い頃から親交のあった高橋事務局長秘蔵の、作家椎名誠の原点というべき「哀愁の町に霧が降るのだ」時代の手書き原稿やガリ版刷り同人誌が展示されました。今回の参加者は、椎名ファンの女性や我われの息子世代も多く、それらの資料を写真に撮ったり、1枚1枚熱心にページを繰っている姿が印象的でした。

講演の前半では、チベットやインドなど30年以上にわたって辺境を旅してきた目で見た文化の違いを、豊富な経験談をまじえてわかりやすく語ってくれました。講演の後半では、世界の各地でみられる、水不足と汚染の怖さを訴え、日本の水のありがたさを強調しました。世界の水不足を解決するのは、技術者のたゆみない努力である。たとえば海水淡水化技術では、日本の技術は世界トップレベルにある。こうした貢献を高く評価したいとして、講演の結びとしました。我々シニアと同世代の椎名氏が、地球の東西南北の最前線から情報を発信しつづける行動力には、文句なく脱帽しました。



講演会のあと、会場を総合センター構内D棟9階のレストラン「さくら」に移し、椎名氏を囲んで懇親会をもちました。さらに、椎名作品のなかで重要登場人物である木村晋介弁護士も、先約の会合をぬけだして駆けつけてくださり、窓外に代々木公園の深い緑をみおろす絶好のロケーションとあいまって、じつに楽しい会となりました。著書を持参してサインをもらっている方もいました。なにごとか、椎名氏と議論している方もいました。青年時代の同人誌の仲間が、久しぶりの出会いを喜んでいました。それぞれの思いをこめて、作家椎名誠氏を囲んでの1時間半は流れていきました。

